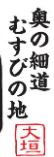


奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部



奥の細道
むすびの地

特選

令和八年五月度 入賞句一覧

投句数 六百六十五句

名和 永山 選

春泥や語尾のゆるやかアナウンス

大垣市 高木 歌佐

季語「春泥」は春の訪れを知らせる。しかし、地面には水たまりも残っており、それでもこの時を待つていた球児たちはグラウンドへ散らばる。「語尾のゆるやかアナウンス」から、地方球場だろうか。「三番、ショート〇〇君」の声に聞こえてきた。季語「春泥」は、当然外の情景を想像させる。「アナウンス」があるところということから「陸上競技場」もしくは地方球場」をイメージした。「語尾のゆるやか」の措辞が上手い。

豪邸も池も更地や牡丹散る

不破郡垂井町 久保田 絃義

季語「牡丹」は夏。「百花の王」とも言われ、圧倒的な華やかさで堂々としている。それに、運命めいた存在感がある。散るときには、塊のままどさり、と落ち、劇的な終わりの気配を感じる。掲句は、かつての繁栄、富、権勢の象徴が、形もなく消えたという、決定的な終わりを語っている。切れの「や」で一度世界が止まり、その静止した空間に、牡丹の散り落ちる音が響くようである。

調教の馬のギャロツプ草萌ゆる

和歌山県日高郡 水野 あき

季語「草萌ゆる」は、地面の下から光が押し上げてくるような生命力を意味する。この柔らかな季語に対して、「調教の馬のギャロツプ」という強い動きが対照的で、句にドラマが生まれている。「調教の馬」という人為的な世界と、「草萌ゆる」という自然の息吹が同じ場所に置かれることで、人と自然の境界がふつと溶ける瞬間が見える構図になっている。ギャロツプのリズムは、春の力に馬が呼応しているような必然性を帯びている。ドラマ性のある句である。

秀逸

川湊名残りの花に雨しとど

養老郡養老町 田中 紫香

花ふぶき空の広さを測りけり

大垣市 種田 美弥子

雪柳散らして猫の通り道

不破郡垂井町 野々部 節子

滑り台初夏の光も滑らせて

大垣市 高田 雅章

幾千の星を纏へりやまぼうし

揖斐郡大野町 豊田 美見

耕せばひと鍬ごとに土光る

不破郡垂井町 竹嶋 富美子

城門を閉ざす桜薬降る夜

養老郡養老町 佐藤 咲楽

春雷や青切符手の高校生

本巢市 土川 楽人

間道を出づれば天守青嵐

岐阜市 堀江 美州

風神の逆鱗触れ春嵐

滋賀県長浜市 野口 成人

入選

老ひ眉を切る夫春の誕生日

海津市

横井 美圭

竹皮の匂ふむすびに花菜漬

大垣市

早告 千恵子

さよならは言わぬ約束春夕焼

大垣市

三輪 実

余生とは恙無き日々躑躅咲く

大垣市

酒井 和美

声高に夢を語りぬクローバー

大垣市

村瀬 佐智子

恙なき夫との暮らしつばめ来る

大垣市

宮脇 和子

大声の飛語も漉き込み甘藷植う

本巢市

小泉 裕子

斑鳩の三塔けふる遠霞

東京都江戸川区

羽住 博之

母の日や心の奥にネガのまま

群馬県館林市

坂口 いちお

初出仕光り溢るる楠若葉

神奈川県平塚市

三留 明

春霞ゆるりと届く時の鐘

岐阜市

寺島 瞭太

優先席やっぱ寝たふり新社員

埼玉県越谷市

小田 毬藻

よべの雨はくれん散らし大地染む

大垣市

長柄 明美

胸に了ふ古傷ひとつ花の冷え

愛媛県松山市

平野 ヒサエ

重力に委ねる瞼春眠し

埼玉県さいたま市澤田

紫

選者吟

南風吹く胸のつかへのほどけゆく

永山



一般の部